

新年の挨拶

新年あけまして
おめでとうございます



和水町長
坂梨 豊昭

新年明けましておめでとうございます。平成23年の輝かしい新春をご家族お揃いでお迎えのこととお慶び申し上げます。また、日頃から町行政に温かいご支援ご協力を賜り、改めて厚くお礼を申し上げます。

さて、平成22年を振り返ってみますと、宮崎県で猛威を振るった口蹄疫被害や、尖閣諸島沖の中国漁船衝突事件に端を発する中国との領土問題、およそ9ヶ月間という短い期間での政権交代など、国民生活や地域経済に大きな影響を与えるような出来事がいくつも重なりました。

相変わらず先行き不透明な社会情勢、大変厳しい財政状況であり、和水町もご承知のとおり例外ではありません。予算全体を見直し、限られた収入で最大の効果を得るため、まず財源の確保に最大限の努力をするとともに、引き続き支出全般にわたる抜本的な見直しを行い、町民の皆様の生活がよりよいものとなるように、行財政基盤を構築していかねければならないと考えています。

和水町の出来事を振り返りますと、4月には、より子育てしやすい環境づくりのため、役場三加和総合支所内に「子育てひろば」を開設しました。定住促進策の一つとして平成21年8月から分譲しておりました平野グリーンビレッジも5月には無事完売となりました。夏には2年に1度の消防操法大会が行われ、和水町消防団は郡大会を勝ち抜いて県大会へ出場し、見事な成績を収めました。また、

夏期巡回ラジオ体操・みんなの体操会「和水町大会」も町総合グラウンドで開催され、その様子は全国、そして海外へ生放送され和水町存在を広くアピールできたものと思います。

和水町は現在、少子高齢化や農業後継者不足などの他、小中学校の統合という難題を抱えております。しかし、これからも「対話によるまちづくり」を基本理念とし、希望あふれ人と地域が輝くまちを目指してまいります。二つの町が合併し和水町となつてはや5年、和水町長としても2期目を迎えその想いをより一層強くし決意を新たにしたいところでございます。

最後に、町民の皆様の町政へのお一層のご理解とご協力をお願い申し上げますとともに、ご多幸とご健康を心からお祈り申し上げ年頭のご挨拶といたします。





町議会議長
多賀 勝丸

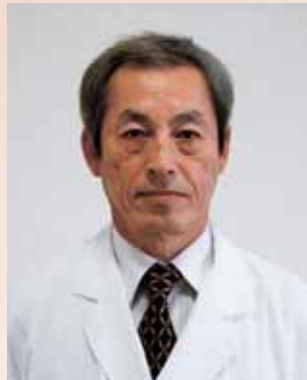
今回は議員数2名減となりましたが、町政の進展を図るためには議員1人1人がしつかりと考え、旧2町時代からの課題や、多様化する要望に適切に対応しながら、住民福祉の向上と新しい時代の要請に応える事が重要課題であると思います。

新年明けましておめでとうございます。町民の皆様におかれましては、輝かしい新春を健やかに迎えのことと心からお慶び申し上げますとともに、日頃より議会に対する温かいご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。昨年4月に合併後2回目の町議会議員選挙が行われ、新しく14人の議員でスタートし早くも8ヶ月が過ぎました。より身近な議会、開かれた議会を目指し、議会議員はどのようにあるべきか足元を見つめ直し、町民の皆様の負託に応えてまいりたいとあらためて決意しているところでございます。

さて今年3月で合併満5年となりますが、本町も学校統合、少子高齢化、基幹産業である農業の低迷など大きな課題が山積しております。農業関係のTPP(環太平洋戦略的経済連携協定)については、議会として絶対反対の意見書を国に提出した所であります。また、

町民の皆様が何を求めているかを的確に捉え、町の意思決定に対する「チェック」機能として大いに議論し、任された役割を十分発揮する責務があると再認識いたしております。改革は様々な摩擦や痛みを伴いますが、新時代の地方自治を切り開いていく必要があると思っております。九州新幹線も今年3月に全線開業いたします。その対応策も重要課題であります。色々な面で執行機関と大いに切磋琢磨しながら、住んでよかったと思えるまちづくりの実現に向けて議員全員で鋭意努力してまいりたいと思っております。

皆様にとりまして本年がより実りある飛躍の年となりますように心から祈念申し上げますとともに、今後とも議会に対し一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。新年の挨拶といたします。



町立病院院長
坂本 泰雄

新年明けましておめでとうございます。お健やかに、新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

インフルエンザ蔓延の中始まった昨年は、暑い長い夏をはさみ閉塞感漂う1年であったように思われます。

新しい日本建設を期待された鳩山民主党政権は、「政治と金」「普天間基地移設」問題で迷走した挙句辞職。後任を託された菅内閣においても、7月の参院選で民主党が大敗した為、2年前と逆の「ねじれ国会」となり、「尖閣諸島」や「北方領土」を巡る中国・ロシアとの摩擦、閣僚の問題発言が重なり重要審議が停滞し、円高経済不況の中で日本が世界的にも孤立を深めているのではないのでしょうか。

医療界でも「地域医療崩壊」という現実が、政界・マスコミでもやっとなり上げられるようになり、医学部定員増や診療報酬引き上げ、

地域医療支援交付金増額の施策が打ち出されました。しかしながら、医師の診療科や地域偏在の是正、また適正配置には議論が及ばず、都市部の大病院にはメリットがあったようですが、中小地域病院にとりましては、医師・看護師不足は解消されず、診療科休止・病院閉鎖が続いております。

町立病院も大学病院・郡内病院などから医師の応援を仰ぎながら何とか診療を継続しております。そのような苦しい医療環境の中でも、昨年町立病院では診療面において、高精度の新型内視鏡機器・CT・X線装置に更新していただきました。また環境面では、病棟裏の駐車場の整備、緑の庭園を造っていただき、皆様の癒しを含め健診・人間ドック・日常診療が充実できたのではないかと思います。

運営面においても、21年度病院会計が2年連続の黒字決算が計上でき、今年度も順調な運営を継続しております。ひとえに皆様の厚いご支援のおかげと感謝申し上げます。

ここに改めて、皆様にとりまして本年が幸多き年でありますよう、祈念申し上げます。新年の挨拶といたします。